

こ だ ま

初めてのとき 生き方を考える

何か失敗をして、恥ずかしい思いをしたことはありませんか。だれでも経験していることです。どんな世界の名人や実力者でも、そのことを初めてやったときというものがあります。そして、知識や経験不足による失敗をして恥ずかしさを味わったはずです。その体験談は、時に成功談より人を勇気づけることがあります。こんな話があるので紹介しましょう。

ヨーロッパのアルプス三大北壁登頂や冬季エベレスト単独登頂成功など、輝かしい実績を残し、33歳の若さでエベレストで消息をたった登山家の加藤保男さん。その著書『雪煙をめざして』の中に、高3のとき、初めて本格的登山をやった日のことが記されています。

出発前に『アイゼンを用意するように』と言われていたので、準備はしていましたが、付け方が分りません。横目でほかの人たちのやり方を見ながらまねて、なんとか登山靴にくっつけ、みんなの後を追っかけたそうです。また、「この山は何山なの」と聞いて、「そんなことも知らないのかい、槍（槍ヶ岳「やりがたけ」日本を代表する山）だよ」と笑われたりしました。さらに、2時間しか仮眠をとらないで雪道を歩かせられ、それでも不満そうな顔をしている人がいないことを見て、『山をやるということは、きびしさに耐えることなんだ』と感じたりしています。これがエベレストの怪物とよばれた人のかけだしの頃の体験なのです。自分から進んで登ろうという意欲もなく、体力だけで参加した一人が、やがて日本を代表する登山家になるのです。**どんな名人にも初めてのときがあります。そして恥ずかしい体験をしているのです。**

さて、私たちは、ここから何を学びとればいいのでしょうか。皆さんそれぞれに、何か考えてくれたと思います。まずは、素直に何でも一生懸命にやってみることが大切なのでないでしょうか。たくさんの可能性を秘めた皆さんですから、真剣に物事に取り組んでいくうちに、自分自身にあった何かが見つかるはずです。

ちょっとした辛さや恥ずかしさから逃げ出してしまっては、隠れた才能がそのままということもあります。
お互いに気を付けていきましょう。

富士登山の提出準備をしよう

家庭学習の習慣を付けるために取り組んでいる「富士登山」。そろそろ第1回目のまとめの時期です。今回の反省をきちんと書いておき、次回に生かせるといいですね。

さて、来月16日から中間テストがあります。その前には春季地区大会があり、テストに対する意識が薄くなりがちですが、こつこつと家庭学習を継続していきましょう。

